

④ 防災関連機能と規模の整理

防災公園としての機能・規模を一覧にまとめたのが以下の表となる。

広域避難場所としての役割想定

時系列	役割	備考
① 災害発生から概ね3時間	○各競技場および広場を避難場所として想定（ヘリコプター離着陸スペース 除く）	通路・駐車場は避難場所として想定しない。
	○ヘリコプター離着陸スペース（競技場②） 災害発生当初から離着陸場としての運用	・発災初期は、救助・救護を目的として運用 ・災害対応の推移により、物資搬送を目的として運用
② 概ね3時間から概ね3日間	○広場①の応援部隊受け入れスペースのほか、テントでの避難を希望する避難者の避難場所としての開放を検討中	
③ 概ね3日間以降	○物資集積拠点及び輸送拠点 3日間以降から運用を想定	
	○広場①の応援部隊受け入れスペースのほか、テントでの避難を希望する避難者の避難場所としての開放を検討中	

計画地における防災機能と対応内容

機能	概要	○：該当 △：場合によっては該当 -：該当しない (○)：部分的に対応			必要数量・規模
		該当	対応要素・施設等	対応内容	
①避難	広域避難スペース	○	空間	競技場、広場、緑地、駐車場、通路等	避難人口41,800人×2m2 必要面積（最大）83,600m2
②災害の防止と軽減、及び避難スペースの安全性の向上	市街地火災等の延焼遅延・防止	(○)	空間	計画地南側・東側での延焼に対し避難場所は離隔確保	離隔距離30mにて避難広場面積を設定
	避難スペースの安全性の向上	(○)	緑	計画地北西での延焼可能性を考慮した、防火性能に配慮した植栽帯	常緑樹主体の植栽帯、幅7m
③情報の伝達と収集	予報、警報の伝達	○	施設		
	被害、避難関連情報の伝達と収集	○	施設	放送設備：クラブハウス	
	安否関連情報の伝達と収集	○	施設	非常用通信設備：I P無線機・市施設建物内	
	救助、救援関連情報の伝達と収集	○	施設	防災行政無線：市施設建物付近	
	緊急、応急物資関連情報の伝達と収集	○	施設	掲示板：計画地内・複数設置	
	生活情報関連情報の伝達と収集	○	施設		
	救援活動等の指揮	-	-		
④消防・救護、医療・救護活動の支援	消防機関等の消火・救助活動支援	○	空間、施設	消防水利：泉プールの水が利用が可能であれば活用 機材・資材：- 活動の拠点スペース：救助活動におけるヘリとのランデブポイント	
	住民等の消火・救助活動支援	-	施設	-	
	医療・救護活動スペース	-	空間、施設	医療・救護活動は計画地では行わない	
	遺体仮収容スペース	-	空間、施設	遺体仮収容の想定は無い	
⑤避難及び一時的避難生活の支援	飲料水の供給	○	施設	避難者の持参と、ペットボトル水を前提とし、不足分は、応急給水システムの配備や集中管理倉庫のペットボトル水で対応	必要水量（参考）：62.7m3（避難人口50%×1日） ～376.2m3（避難人口100%×3日）
	生活用水の供給	○	施設	貯水槽、非常用井戸 泉プールの水が利用が可能であれば活用	トイレ洗浄水（参考）：50穴あたり120～360m3 （1～3日）
	非常用トイレの提供	○	施設	公園内トイレ・クラブハウス・市施設建物のトイレは非常用対応とする。 不足数は、マンホールトイレ、非常用組立式トイレで補完する。	必要穴数126穴（避難人口30%）
	夜間使用等への対応（非常用照明・サイン）	○	施設	非常用照明、誘導標識	主な場所5lx、その他は1lx程度
	停電時への対応（非常用エネルギー）	○	施設	グラウンドの既存のライトを非常用電源で確保し、難しい場合は、LEDバルーン等で対応	停電対応対象施設 市施設建物通信室（設備）、クラブハウス、放送機器、計画地内非常用照明、屋外トイレ、屋外トイレ用洗浄水ポンプ、備蓄倉庫、あずまや、パーゴラ
	食料の供給	○	施設	集中管理倉庫にて備蓄	-
	避難生活用品の提供	△	施設	避難所は学校等で対応。	-
	避難生活用機器、資材の提供	△	施設	避難所は学校等で対応。テント・プレハブ等の避難生活は想定しない。	-
	一時的避難生活スペース	△	空間	避難所は学校等で対応。状況により広場を一時的に利用。	適宜
	一時的避難生活の救援スペース	○	空間、施設	市施設建物にて、状況に応じて対応。行政サービス（罹災証明発給等）の場としては想定しない。物資は施設内の一定数備蓄、及び集中管理倉庫での備蓄	適宜
⑥防疫・清掃活動の支援	防疫、清掃活動支援	○	施設	集中管理倉庫にて備蓄	-
	ゴミ等一時置き場	△	空間	駐車場等に必要に応じて設定	適宜
⑦復旧活動の支援	仮設住宅スペース	△	空間	広場・競技場等：候補地にはなりえるが、各種役割の整理が必要。特に防災拠点として運用した場合は、応援等が落ち着いた段階からの想定となる。	適宜
	コミュニティ・憩いの場	○	空間	広場等で時系列に応じて対応	-
	復旧活動支援	○	空間	広場・競技場等：消防、警察、自衛隊等の活動拠点として想定、ボランティアの活動拠点としては想定しない。 自治会、行政、関連機関等の活動拠点、宿泊スペース、仮置き場など	-
	がれき等仮置き場としてのスペース	△	空間	駐車場等：候補地にはなりえるが、各種役割の整理が必要。特に防災拠点として運用した場合は、応援等が落ち着いた段階からの想定となる。	適宜
⑧各種輸送のための支援	輸送拠点	○	空間	ヘリコプター輸送等支援されてきた支援物資等の配送するための拠点	-
	ヘリコプター輸送等支援	○	空間	競技場②：救助・救護および物資輸送	-
⑨徒歩帰宅等の支援	徒歩帰宅等の支援	○	空間、施設	東京23区、市内南部からさいたま市方面へ向かう帰宅困難者の中間地点としての想定。防災関連公園施設等にて対応（便所、水、情報関連、照明関連）	-

防災関連公園施設等と防災機能

施設	防災機能	必要数量・規模	施設内容・災害時の対応
○園路、広場他			
入口形態		計21.11m以上	入口分散配置、合計で必要幅以上を確保
外周形態		-	原則フェンス無し、避難進入可能
広場（避難広場他）		必要面積（最大）83,600m2	競技場②以外で、避難人数に応じて対応。
園路		ランク2 5～6m	主要通路は有効幅員5～6m
ヘリポート		-	競技場②にて対応
○植栽（防火樹林帯）		-	防火樹林帯は設けない。北西部植栽帯は防火性能に配慮
○水関連施設			
貯水槽		公園トイレ・マンホールトイレ用、ヘリポート（競技場）散水用	貯水槽内の水を活用
散水設備（防火）		-	周辺の延焼の恐れが少ないため、防火用散水設備は設けない
○非常用便所		必要穴数126穴程度（避難人口30%） 避難者約100人当たり1穴	①屋外トイレ（災害時も継続利用）30穴 ②市施設建物内トイレ 20穴 ③マンホールトイレ 50穴 ④非常用トイレ（備蓄）26穴 （備蓄は屋外トイレ内の付属倉庫及び集中管理倉庫を想定）
○情報関連施設			
非常用放送設備		-	クラブハウスからの放送設備を災害時にも活用
非常用通信設備		防災行政無線機（固定系）、I P無線機	市施設建物に備蓄予定
標識及び情報提供設備		-	避難場所サイン、掲示板等を配置
海拔表示板		-	設置しない
○エネルギー、照明関連施設			
非常用電源設備		-	停電時に必要な施設への非常用発電機を整備
非常用照明設備		-	公園照明・競技場照明の一部を非常時点灯
○備蓄倉庫			防災倉庫： ・市施設（スポーツセンター）：福祉避難所運営に係る資機材・備蓄品等 ・神根公園内（屋外）：公園内の景観を考慮し、管理事務所内または公園トイレ等に併設
○管理事務所			クラブハウス
○その他の防災活用公園施設			
・修景施設			
植栽		-	通路並木、植栽帯/避難広場へ利用
日陰だな（パーゴラ）		-	計2基：南北貫通路、広場③ 屋内化のための仮設屋根・風よけを備蓄 かまどベンチも設置（炊き出し等へ使用）
・休養施設			
休憩所（あずまや）		-	広場①～③へ各1基 屋内化のための風よけを備蓄 かまどベンチも設置（炊き出し等へ使用）
ベンチ、野外卓		-	広場、通路へ適宜配置/園内の各所で炊き出しができるよう、一部は「かまどベンチ」とし、パーゴラ・あずまやと併設する。
・遊戯場			
遊具		-	インクルーシブ遊具広場、約1,200m2/避難広場へ利用
・運動施設			
競技場①		-	芝生等/避難広場へ利用（テント避難も想定）
競技場②		-	土系舗装（スプリンクラー設備）/ヘリコプター離着陸場へ利用
競技場③		-	人工芝舗装/避難広場へ利用
・便益施設			
駐車場		-	南側計597台：関係機関等の車両スペース、避難場所から輸送拠点への利用変化 北側260台：関係機関等の車両スペース
駐輪場		-	分散配置：各エリアの災害時利用に供
時計台		-	広場①～③、競技場へ適宜配置。 ソーラー式（災害時の時刻表示）
水飲場、手洗場		-	広場①～③へ水飲み（手洗い蛇口付き）を各1基設置。
・管理施設			
倉庫		-	市施設内の倉庫、クラブハウス内倉庫、屋外トイレの付属倉庫等
(給水施設)			
(排水施設)			
(雨水貯留施設)			
(電気、放送等施設)			